

横浜PPPプラットフォーム 公民グループ対話

開催方式：複数事業者と事業所管局とのグループ対話

開催日：6月5日（水）

事業名	LED防犯灯の包括的維持管理
事業手法	検討中
事業概要	<p>従来は自治会町内会が管理していた防犯灯について、LED化を進め市の所有としました。現在は、市内一円約18万灯（電柱共架タイプ約16万灯、独立柱（鋼管ポール）タイプ約2万灯）のLED防犯灯について、ESCO事業者を含む複数の事業者と契約し維持管理しています。</p> <p>ESCO事業終了後、この約18万灯の包括的維持管理（器具更新、通報受付、現場調査、不具合修理、新設・撤去、各種連絡調整等）について、PPP手法の導入も含めて検討を進めていきます。</p>
現在の検討状況	事業手法の検討
提供可能な行政資源	市内全域に設置したLED防犯灯 約18万灯 内訳：電柱共架型防犯灯 約16万灯 独立柱（鋼管ポール）型防犯灯 約2万灯
民間事業者との対話により確認したい事項	① 参画可能な業務内容、期間、地域 ② 参画に向けて、現時点での障壁や課題 ③ 参画を検討する上で市に求めること、配慮してほしいこと
事業実施にあたり重視する点	<ul style="list-style-type: none">・街の灯りの一層の適正配置を目指しての、安定的で効率的な維持管理・民間のノウハウを活用した、市民サービスの向上及び安全安心なまちづくりへの貢献・更新費用の平準化を含めた財政負担軽減の提案
事業スケジュール（予定）	R5(2023)年10月：サウンディング型市場調査 ※実施及び結果公表はこちらのHPでご覧いただけます < https://www.city.yokohama.lg.jp/bousai-kyukyu-bohan/bohan/LED/ledbohanto_R5hearing.html > R6(2024)年度：事業手法検討調査

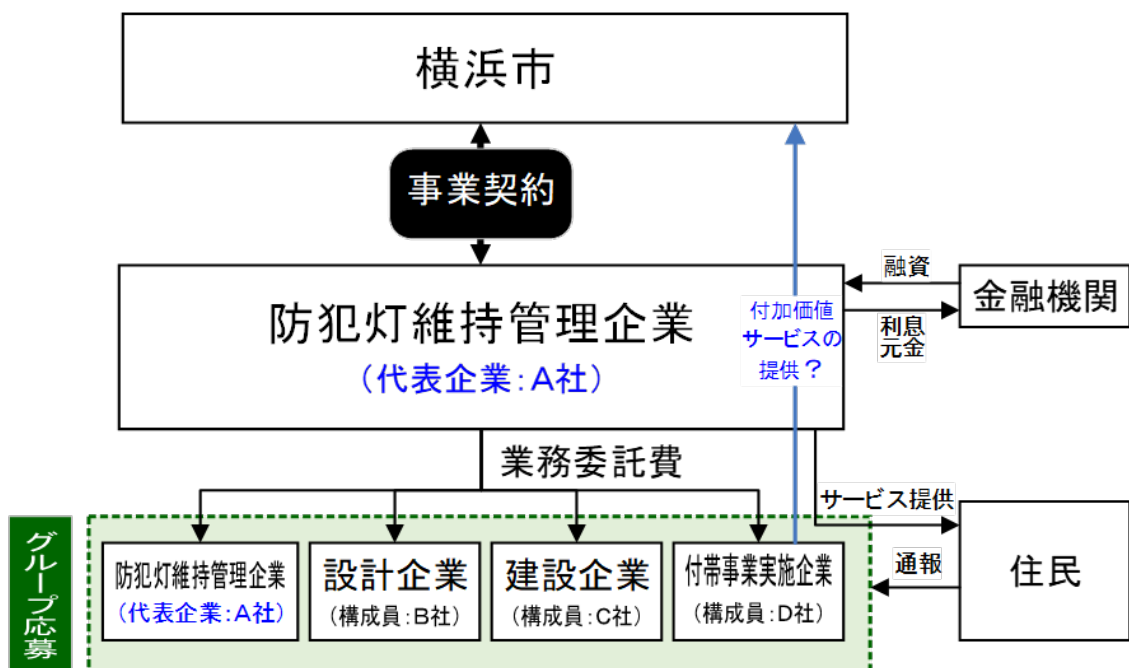
	<p>サウンディング型市場調査（2回目）</p> <p>R7(2025)年度～：検討結果を踏まえた手続き （～R8(2026)年度：ESCO 事業終了）</p> <p>R9(2027)年度：事業開始</p>
意見の取扱	<p>いただいた意見等については、内容を精査した上で、今後の有効活用方策の検討に反映いたします。</p> <p>なお、主な意見については公表することがございます。</p>
担当部署	<p>横浜市市民局地域防犯支援課</p> <p>担 当：佐々木、豊田</p> <p>電 話：045-671-3709</p> <p>メール：sh-chiikibohan@city.yokohama.lg.jp</p> <p>参考 URL <https://www.city.yokohama.lg.jp/bousai-kyukyu-bohan/bohan/LED/></p>

「防犯灯」とは

住宅地における夜間の地域住民の歩行の安全の確保と、犯罪の防止を図るため、公衆の用に供する道路を照明する場所に横浜市が設置、所有及び維持管理する照明灯です。（その他の屋外照明には、道路照明灯、商店街灯、公園灯等があります。）

<参考>

想定する事業スキームイメージの例



想定する官民役割分担イメージの例

大分類	小分類	主な業務内容	役割分担【●：実施、▲：補助】		
			市 (直営 or 委託)	民間 事業者	
計画業務	各種計画業務				
	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 灯具交換の実施計画(交換スケジュール等)の作成 ➤ 防犯灯及び鋼管ボールの予防保全計画の作成 ➤ 事業全体のコンサルティング業務 	▲ (計画作成支援)	●		
	通報受付業務			●	
維持管理 業務	防犯灯維持管理システム構築業務		▲ (データ提供)	●	
	業務の記録及び報告			●	
	管理用名称札の作成・管理			●	
	灯具更新			●※1	
	現場調査			●※2	
	不具合修理等			●※2	
	灯具の設置、撤去、交換、移設			●※2	
	鋼管ボールの点検、設置、撤去			●※2	
	緊急時対応(災害対応)			●※2	
	安全対策			●	
	仮設物及び資機材の持ち込み			●	
	各種連絡調整	東京電力その他の関係機関への 手続			●
		道路占用許可申請など、本市が申 請を行う必要のある手続		●	▲

※1：事後保全、予防保全の手法については、民間事業者の提案に委ねる。

※2：具体的な水準（●営業日以内の対応 等）については、引き続き民間事業者との対話を重ねながら設定する。

横浜市の管理するLED防犯灯



明日をひらく都市
OPEN X PIONEER

市内 18万灯

◆電柱共架型 16万灯

(灯具のみ管理)



◆独立柱（鋼管ポール）型 2万灯

(独立柱を建て、灯具をつけて柱ごと管理)



サンプル

- ・管理番号を記した黄色いプレートで識別
- ・地図情報あり

※日常の見守り（故障の発見・連絡、繁茂した草木の除去等）は、自治会町内会にご協力いただいています

横浜市が防犯灯を管理する経緯、及び維持管理の課題



明日をひらく都市
OPEN X PIONEER

経緯

～H20(2008)	自治会町内会が管理
H21(2009)～	LED化し、本市管理開始
H26(2014)	電柱共架型 ESCO事業（11.6万灯）
H28(2016)	独立柱（鋼管ポール）型 ESCO事業（1.8万灯） （灯具をLED化する際に、既存のポールも市の所有とした）
R6(2024) R8(2026)	各ESCO事業終了

課題

- ①地域の声に迅速に応える体制
- ②経年劣化した鋼管ポールの撤去・建替え
（市に移管された既存ポールについては、建柱年・構造が不明）
- ③設置時期が大きく偏る灯具の更新

現時点の想定

事業対象 市内一円、全て(18万灯)の防犯灯

事業期間 10年～13年、最長15年程度

手 法 PPP手法の導入も含めて検討中

「包括的
維持管理」
の内容

コールセンターによる通報受付、維持管理システム運営、灯具更新、不具合修理等、灯具の設置・撤去・移設、鋼管ポールの点検・撤去及び設置 等

R5 サウンディング型市場調査で見たPPP事業の可能性



明日をひらく都市
OPEN X PIONEER

